

はじめに

Figma（フィグマ）は、Web やアプリをデザインするための定番のソフトウェアです。静止画面だけでなく、操作可能な試作モデル（プロトタイプ）を作ることができます。

Web やアプリを作るにあたっては、コーディングに入る前の「設計とデザイン」が重要です。Web で発信する宣伝や広告を考えている人、会社で使うシステムを考案中の人、新しいゲームソフトを作ろうとしている人、どの場合も最初に「設計とデザイン」が必要になります。Figma は、こうした「設計とデザイン」を行うための業界標準の UI/UX デザインツールです。

プロのデザイナーも使用するツールのため、高額な費用がかかると思うかも知れませんが、Figma には使用期間の制限がない無料プランがあり、主要な機能のほとんどを無料で利用できます。Web ブラウザ上で動かす Web アプリケーションとして開発されているため、高価な PC を用意する必要もありません。Mac と Windows のどちらでも動作が可能です。高品質のデザインが可能ですが、敷居は高くなく、誰もが習得しやすいソフトウェアです。

本書は、Figma をはじめて学ぶ人のために、操作しながら習得する「ハンズオン」の形式で執筆しました。新しいソフトウェアを効率よくスピーディに学ぶ一番の近道は、自分の手で操作することです。無料でダウンロードできるサンプルデータを使って Web ページのデザインを完成させることで、Figma の体系的な知識と操作が身につきます。

本書で作るサンプルは非常にシンプルなものですが、Figma の基本機能を盛り込んだ内容となっています。詳細な手順で解説しているので迷わず操作が進められ、Figma を短期間で習得できるはずです。Figma は 2024 年に大きなアップデートを行いました。本書は、2025 年 1 月時点の最新の Figma に対応しています。

スマホで使う Web やアプリは、もはや暮らしや仕事の中心となっています。Figma を習得することで、暮らしや仕事に役立つ Web やアプリのアイデアを目に見える形でデザインできるはずです。

本書を通して Figma が、あなたやあなたを取り巻くすべての人たちをよりよくするツールとなることを願っています。

2025 年 1 月
古尾谷真人

●本書解説の Figma について

本書は、Figma の無料の「スターター」プランをもとに、操作方法を解説しています。「スターター」プランは一部の機能制限がありますが、基本的な機能は有料プランの Figma と同じです。「スターター」プランに使用期限はなく、無料のまま永続的に利用できます。

●記載内容について

本書に記載された内容は、情報の提供のみを目的としています。したがって、本書を用いた運用は、必ず読者ご自身の責任と判断によって行ってください。これらの情報の運用の結果について、技術評論社および著者はいかなる責任も負いません。

本書記載の情報は、2025 年 1 月現在のものを掲載しています。ご利用時には変更されている場合もあります。本書の説明とは機能や画面などが異なってしまうこともありえます。以上の注意事項をご承諾いただいた上で、本書をご利用願います。これらの注意事項をお読みいただくかぜひお問い合わせいただいても、技術評論社および著者は対処しかねます。あらかじめご了承ください。

●商標、登録商標について

本書に登場する製品名などは、一般に各社の登録商標または商標です。本文に ™ マーク、® マークは明記しておりません。

CONTENTS 目次

はじめに	003
本書の利用方法	008
LESSON 用のサンプルファイル	009
本書の LESSON で作成する内容	010

LESSON 1

Figmaの概要と レッスンの準備

01 Figma と UI/UX デザイン	012
01 シェア No1 の Figma	012
02 なぜ Figma が必要なのか?	013
02 ソフトウェアの準備	014
01 ユーザー登録	014
02 料金プランの選択と登録完了	016
03 Figma のデスクトップアプリ	017

LESSON 2

スマートフォンの Webデザイン

LESSON 2 の内容	020
01 スマートフォン画面の作成	021
01 新規ファイルの作成	021
02 iPhone サイズのフレーム作成	024
03 レイアウトグリッドの作成	025
04 画面の拡大表示とスクロール	027
05 ガイドラインの作成	029
02 画像とテキストの基本操作	030
01 画像の配置	030
02 長方形への画像の配置	031
03 テキストの入力と書式設定	033
04 テキストの複製と編集	035
05 複数行のテキスト入力	037
03 アイコンの作成	040
01 格子状のレイアウトグリッド	040
02 直線の描画	041
03 選択範囲のフレーム化	043
04 円の作成	044
05 複数の線のグループ化	045
06 線の描画と角の設定	047
07 直線を曲線に変換	048
08 拡大縮小と線のアウトライン化	050
09 選択範囲の統合	051
10 Iconify プラグインによるアイコンの配置	052
11 フレームのサイズ調整	054
12 画像のエクスポート	055

LESSON 3

スクロールする スマートフォン画面

LESSON 3 の内容	058
01 オートレイアウトの基本操作	059
01 オートレイアウトで水平方向に整列	059
02 オートレイアウトで均等に配置	060

03 フレームの下辺のみに線を設定	062
04 オートレイアウトによる余白の統一	063
05 角丸フレームの作成	065
06 オートレイアウトによるカード型デザインの作成	066
07 フレームのドロップシャドウ	069

02 コンポーネントの基本操作 070

01 セクションの作成	070
02 ヘッダのコンポーネント化	071
03 カード型デザインのコンポーネント化	072
04 複数のインスタンスを配置	075
05 インスタンスへの画像の配置	078
06 インスタンスのテキスト変更	080
07 コンポーネントの更新	082
08 複数のレイヤー名の一括変更	084

03 iOS コンポーネントの利用 086

01 ステータスバーの配置	086
02 ホームインジケータの配置	087

04 プロトタイプの基本操作 089

01 スクロールのプロトタイプ設定	089
02 スクロールのプレビュー再生	090

LESSON 4

ページ遷移する カード型ページ

LESSON 4 の内容 092

01 スタイルの作成 093

01 テキストスタイルの作成	093
02 テキストスタイルの編集	094
03 エフェクトスタイルの作成	095
04 グリッドスタイルの作成	095
05 色スタイルの作成	096
06 色スタイルの編集	097

02 バリアブルの作成 098

01 既存のカラー設定の表示	098
02 既存カラーでバリアブルの作成	099
03 新規カラーのバリアブルを作成	100
04 バリアブルの編集	101

03 ページ遷移の作成 103

01 新規画面の追加	103
02 Unsplash プラグインによる画像の配置	105
03 画像の色調変更	107
04 小さなカード型デザインの作成	108
05 バリアブルやスタイルの適用	111
06 複数のオブジェクトの置き換え	113
07 オートレイアウトで折り返し	115
08 インスタンスへ画像とテキストの配置	116
09 バリエーションの作成	118
10 複数テキストの一括編集	122
11 ページ遷移のインタラクション設定	123
12 ページ遷移のプレビュー再生	126

LESSON 5

ハンバーガーメニューと カルーセル

04	オーバーレイの作成	128
01	カード型デザインの拡大	128
02	オートレイアウトへテキストの追加	130
03	Iconify プラグインによるアイコンの配置	132
04	オーバーレイのインタラクション設定	134
05	オーバーレイのプレビュー再生	135

LESSON 5 の内容

01	ハンバーガーメニュー	139
01	新規フレームの追加	139
02	複数のテキストボックスの作成	140
03	オートレイアウトのメニューリスト	141
04	メニュー表示のインタラクション設定	143
05	メニューからページ移動のインタラクション設定	144
06	ハンバーガーメニューのプレビュー再生	146
02	カルーセルの作成	148
01	画像フレームの移動	148
02	表示する箇所が異なるバリエーション	149
03	カルーセルのインタラクション設定	152
04	カルーセルのプレビュー再生	154
05	インジケータのコンポーネント	155
06	インジケータのバリエーション	157
07	インジケータのインタラクション設定	158
08	インジケータのプレビュー再生	160
03	アプリでプレビュー再生	161
01	スマホ用アプリのインストール	161
02	スマホ用アプリでミラーリング	162
04	Figma ファイルの共有	163
01	制作側の共有設定	163
02	招待されたユーザーによる閲覧	164

LESSON 6

レスポンシブな Webデザイン

LESSON 6 の内容

01	レスポンシブなフレームの拡大	167
01	デスクトップ PC 用フレームの複製	167
02	フレームに合わせて子要素を拡大	168
03	カード型デザインの折り返し	171
04	最小幅と最大幅の設定	173
05	レスポンシブのプレビュー再生	174
02	プロパティによるデザイン変更	176
01	デスクトップ PC 用のレイアウトグリッド	176
02	プロパティによるアイコンの表示・非表示	177
03	ページリンクのコンポーネント	179
04	テキストプロパティの設定	180
05	テキストプロパティによるテキスト変更	180
06	グローバルナビゲーションの挿入	182
07	プロパティによるナビゲーションの表示・非表示	183

LESSON 7

インタラクティブな UIパーツ

LESSON 7 の内容

01	検索用ウィンドウの作成	191
01	新規フレームの作成	191
02	プロパティによるテキスト変更	192
03	プロパティによるバリエーションの表示切り替え	194
04	バリエーションのデザイン変更	196
05	インスタンスのブーリアン型変更	197
06	複数ボタンのオートレイアウト	198
07	オーバーレイのインタラクション設定	199
08	オーバーレイのプレビュー再生	201
02	検索操作アニメーションの作成	202
01	ブレースホルダーのテキスト作成	202
02	テキストボックスのオートレイアウト	203
03	パラパラアニメ用のバリエーションの作成	204
04	アニメーションのためのプロパティ設定	206
05	パラパラアニメのインタラクション設定	208
06	iOS コンポーネントのキーボードを配置	209
07	絶対位置でバリエーションへ追加	210
08	完成したコンポーネントからインスタンスの配置	213
09	検索操作のプレビュー再生	214
03	チェックボックスの作成	216
01	Iconify プラグインによるアイコンの配置	216
02	テキスト追加とアイコンのパス編集	217
03	複数コンポーネントのセット化	219
04	テキストプロパティの設定	219
05	チェック操作のためのプロパティ設定	221
06	チェックを切り替えるインタラクション設定	221
07	完成したコンポーネントからインスタンスの配置	222
08	オートレイアウトによる整列	224
09	レイヤーの入れ替え	225
10	チェックボックスのプレビュー再生	226
04	ドラッグで閉じるウィンドウ	227
01	ドラッグ操作バーの作成	227
02	線のフレーム化	228
03	個別のコーナー設定	230
04	ドラッグ操作のインタラクション設定	230
05	ドラッグ操作のプレビュー再生	231

Google フォント	232
カラーコード	233
ショートカットキー一覧	234
INDEX	236

本書のLESSONで作成する内容

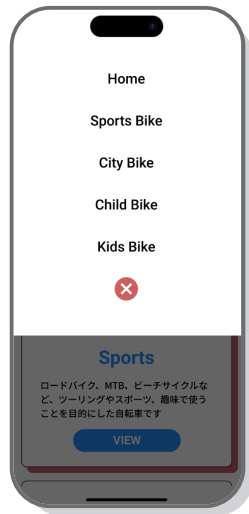
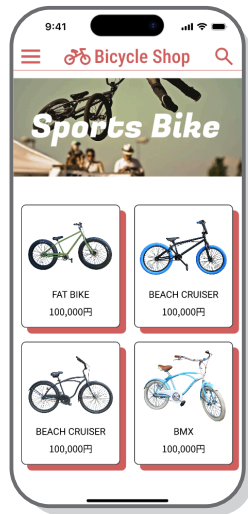
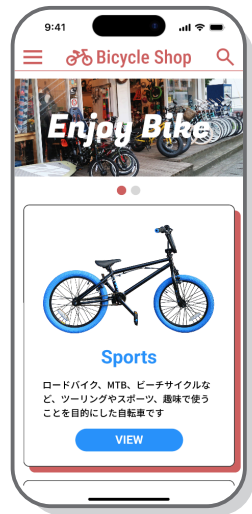
本書のLESSONでは、下記のようなサイクルショップのWebページを作成します。

LESSON 2

LESSON 3

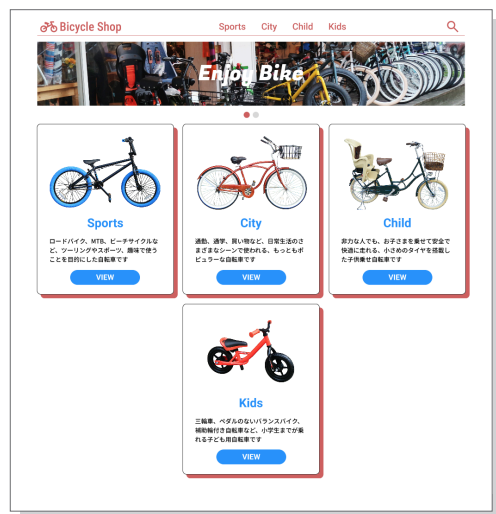
LESSON 4

LESSON 5



LESSON 6

LESSON 7



LESSON 1

Figma の概要と レッスンの準備

最初に「Figmaとはどのようなツールなのか？」を概観します。Figmaをこれから使う人のために、Figmaの導入方法を解説します。

FigmaとUI/UXデザイン

UI/UXデザインツールとしてのFigmaを概観します。制作上でのUI/UXデザインツールの役割について確認しましょう。

01 シェアNo1のFigma

Figma（フィグマ）は、Web業界で最もよく使われているUI/UXデザインツールです。米国ブラウン大学の2人の学生であるディラン・フィールドとエヴァン・ウォレスによって2012年より開発が開始され、2016年に一般公開されました。



Webやアプリをデザインするには、「使いやすくする」ためのUI（ユーザーインターフェース）と「使っていて満足感を得る」ためのUX（ユーザーエクスペリエンス）が必要です。かつては、WebやアプリのデザインにPhotoshopやIllustratorなどのグラフィックソフトが使われていましたが、今では、FigmaをはじめとしたUI/UXデザインツールが使われています。一番の強みはPhotoshopのように静止画だけを作るのではなく、操作可能な試作モデル（プロトタイプ）が作れることです。

2020年以降、FigmaはUI/UXデザインツールのシェアトップとなりました。人気の要因は、① シンプルな操作で高品質なUI/UXデザインが誰でも作れる、② ファイルを共有する機能に優れている、③ 制作の機能が豊富、④ 大手IT企業やユーザーグループによる無料のテンプレートやプラグインが充実、などが挙げられます。

さらに、使うための敷居が低いことも人気の要因でしょう。Figmaはブラウザベースで作られたWebアプリケーションのため、ソフトウェアのインストールが不要です。Figmaのサイトでアカウントを登録するだけですぐに利用できます。Figmaを使うためのシステム要件は低く、スペックの低いPCでも十分に操作できます。

Check! ブラウザベースのFigma

Figmaは、ブラウザベースで動くWebアプリケーションです。ChromeやSafari、EdgeなどのWebブラウザでFigma.comにアクセスして利用できます。Figmaで作ったファイルはクラウド上で管理されるため、自分のPCに保存する必要はありません。この仕組みは、GoogleドキュメントやGoogleスプレッドシートなどで馴染みのある方法でしょう。ただし、Googleのアプリとは異なり、FigmaはiOS

やAndroidのデバイスでは利用できません。iOSやAndroidのタブレット、スマホではFigmaアプリを使用することで、既存のFigmaファイルの閲覧のみが可能です（161ページを参照）。Figmaを使ったデザイン作業を行うには、MacやWindowsのPCが必要になります。Chrome OSのPCは、Figmaの一部の操作ができないため「非対応」になります。

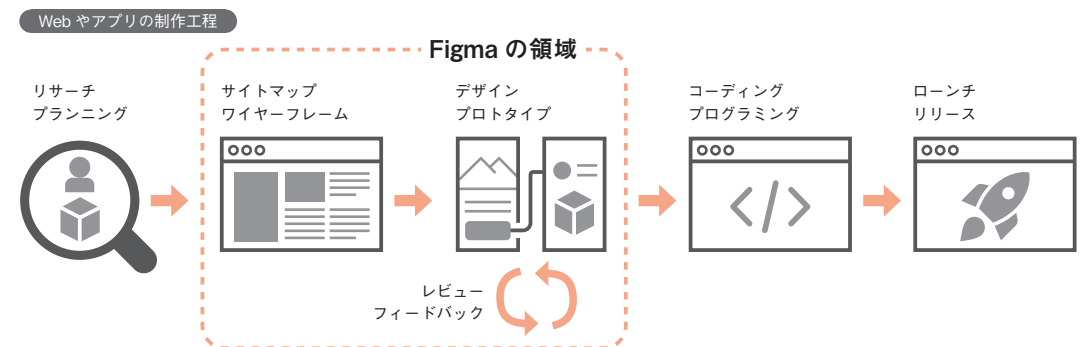
ブラウザベースのFigma



02 なぜFigmaが必要なのか？

かつてはPCで閲覧することが主流だったWebは、スマートフォンの普及によって「スマホファースト」へと変化しました。すると、手のひらサイズで表示される限られた情報量の中で、必要な情報へ速やかにたどり着くための「UIデザイン」が重要となってきました。また、スマホが生活のすべての分野と切り離せないツールになったことで、使い心地のよさを得るための「UXデザイン」も必須となりました。

こうしたUI/UXデザインのためには、コーディングやプログラム開発前のデザインと操作テストが欠かせません。Figmaは、UI/UXデザインを完成させていくための工程であるサイトマップ、ワイヤーフレーム、デザイン、プロトタイプを制作するためのツールとして普及することになったのです。



Figmaのデータは、Figmaのクラウド上に保存されます。Figmaは共有機能に優れていて、複数のメンバーが同じファイルを同時に編集することが可能となっています。Figmaには、コメントやチャット、ミーティングを行う機能があり、関係者の意見を効率的に集約しながらデザインすることが可能です。

デザインとプロトタイプが完成したのちは、Figmaからデザイン素材となるファイルやCSSなどの制作用のデータを書き出して、コーディングやプログラミングに活用できます。

Webの広告制作や社内システムの開発において、プロトタイプを作り、ユーザーの意見を取り入れる方法は、IT系の企業や制作会社だけでなく、多くの民間企業、組織や団体によって採用されています。

Check! 実現しなかったAdobeの買収

2022年9月、Adobe社はFigma社を買収すると発表しました。Adobe社はPhotoshopやAcrobatの開発会社として有名ですが、Figmaの競合ソフトであるAdobe XDも開発しています。買収額は、200億ドル（当時のレートで約2.9兆円）という巨額な内容でした。発表後Adobe社は、開発リソースをFigmaに集中するべく、Adobe XDの新機能の開発を停止しました。

ところが、欧州委員会などのヨーロッパの組織が、この買収案に対して独占禁止法違反の嫌疑をかけます。Adobe社はこの嫌疑をクリアできないと判断し、発表の約1年後、2023年12月に買収の断念を発表しました。断念後も、Figma社の経営は堅調です。Adobe XDが衰え、UI/UXデザイン市場でのFigmaのトップが続いています。

線や円、ベクトルを操作して自転車のアイコンを作ります **B F**

線を描いて3本線のアイコンを作りフレーム化します **A B F**

プラグインを使ってアイコンを配置します **E F**

テキストを入力、テキストを入力、テキストを入力、テキストを入力、テキストを入力 **D**

複数行のテキストを入力します **D**

テキストを入力、テキストを入力、テキストを入力、テキストを入力、テキストを入力

画像とテキストを配置します **C D**

スマホ画面のフレームを作成し、グリッドやガイドを設定します **A**

レッスンで学ぶこと

- A** フレーム操作
- B** 図形の描画
- C** 画像操作
- D** テキスト設定
- E** プラグイン
- F** ファイル書き出し

01

スマートフォン画面の作成

スマートフォン用の Web ページを作るために、iPhone の画面サイズのフレームを作成します。

01 新規ファイルの作成

Figma の新規ファイルを作成します。最初に、ファイルブラウザの機能を確認しましょう。

- 1 Figma を起動し、ファイルブラウザを表示します (17 ページを参照) **1**。[最近表示したファイル] を選択します **2**。

1 ファイルブラウザの表示

Figma の新規ファイルを作成するボタンです。

FigJam と Figma Slides のボタンです。本書では解説しません。

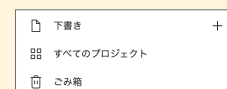
インポート (9 ページ参照)。

2 選択

この領域にファイルが表示されます。本書で操作するファイルもここに表示されます。

Check! 下書き

Figma のファイルは「下書き」と「プロジェクト」の2種類に分類して保存されます。



「下書き」へは、実用前の「企画」「アイデア」「資料」「研究」用のファイルを保存します。「プロジェクト」

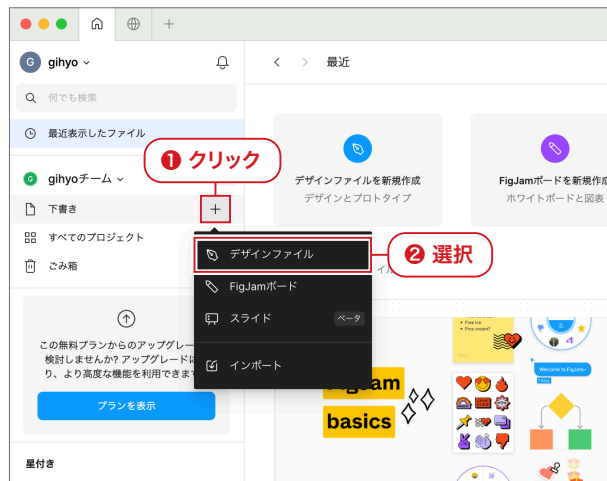
へは、実用段階のファイルを保存します。無料の「スターター」プランは、「下書き」へ保存できるファイル数には制限がありませんが、作成できる「プロジェクト」は1つのみ、「プロジェクト」内へ保存できるファイル数は3つまでという制限があります。

本書のファイルは Figma の勉強用のため、「下書き」に保存して操作していきます。

2 [下書き] の [+] をクリックして①、[デザインファイル] を選択します②。

Notes

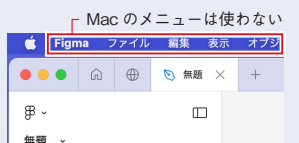
ファイルブラウザの [デザインファイルを新規作成] をクリックしても同じ操作が可能です。ここでは、[下書き]のデザインファイルを確実に作成できる手順で操作しています。



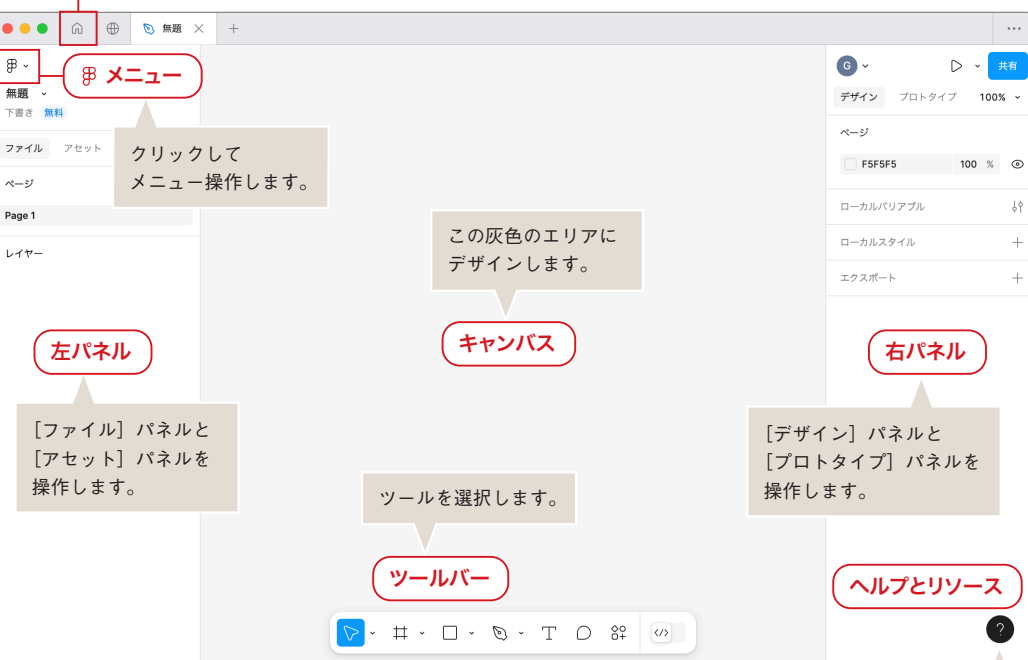
3 新規ファイルが作成され、作業画面が表示されます。画面の名称と用途を確認しましょう。

Notes

Macのデスクトップアプリでは、ウィンドウ上にメニューが表示されます。本書では、Macのメニューは使用しません。



ホームボタン ファイルブラウザへ戻ります。



Tech

Webブラウザ版のFigmaには、上図の [ホームボタン] がありません。ファイルブラウザへ戻するには、⌘メニュー → [ファイルに戻る] を選択します (17ページを参照)。本書は、Figmaの最新のUI (UI3) の画面で操作していきます。旧UIからUI3へ変更するには、画面右下の ? をクリックして、[新しいUIを使用する] を選択します。

クリックして、メニュー操作で「ヘルプ」や「使用言語の変更」「ショートカットの表示」などを行います。

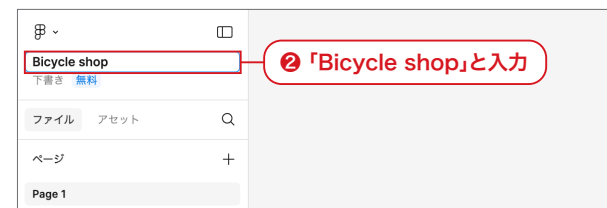
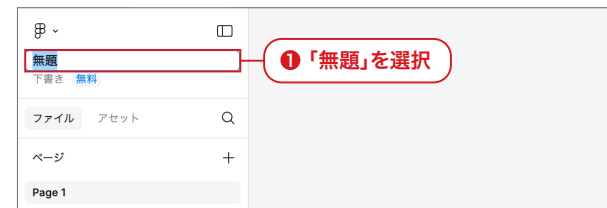
4 左パネルの「無題」の文字を選択し①、以下のテキストを入力します②。

Tech

保存のための操作は必要ありません。ファイルは、クラウド上に自動で保存されます (28ページの「Check!」を参照)。

Tips

操作後に [元に戻す] ときは ⌘/Ctrl + Z キーを押します (28ページの「Check!」を参照)。



5 タブがファイル名になります①。保存先として [下書き] と表示されます②。



6 保存先が [下書き] になっていない場合は①、[Bicycle shop] 右横の ∨ をクリックします②。メニューが表示されたら [移動] を選択します③。

Notes

本書の手順どおりに操作すれば、[下書き] が保存先になります。保存先が [下書き] になっている場合は、次ページの手順に進んでください。



7 ダイアログが表示されたら、[All] を選択し①、[ドラフト] を選択して②、[移動] をクリックします③。



Bicy

オートレイアウトを使って、ヘッダ内の各要素を整列します **A**



公開されている外部コンポーネントを使って、ステータスバーとホームインジケータを配置します **D**

Sports

バイク、MTB、ビーチサイクルなど、ツーリングやスポーツ、趣味で使う目的にした自転車です

ドロップシャドウや角丸のある図形を作り、オートレイアウトとコンポーネントを使ってカード型デザインを完成します **A B C**

画面のスクロールを設定し、プレビュー再生時に操作します **E**

BUTTON

オートレイアウトとコンポーネントを使って、ボタンを作ります **A B**

レッスンで学ぶこと

- A** オートレイアウト
- B** コンポーネント
- C** フレーム加工
- D** 外部コンポーネント
- E** プロトタイプ

01

オートレイアウトの基本操作

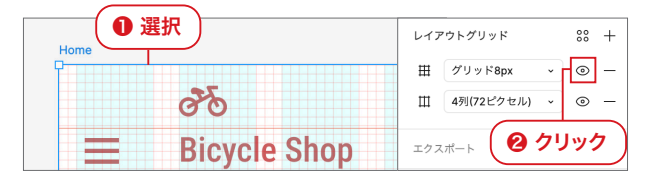
複数のオブジェクトを整列し、オブジェクト同士の間隔や余白を統一できるオートレイアウトを操作します。

01 オートレイアウトで水平方向に整列

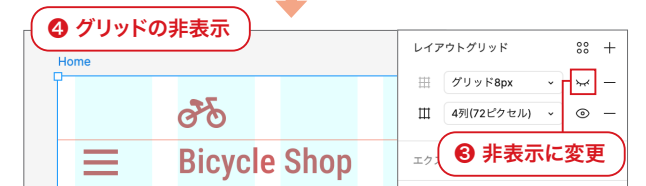
サンプル 3-01-01.fig

オブジェクトを水平・垂直方向に整列できるオートレイアウトの機能を使用して、オブジェクトを水平方向に並べます。

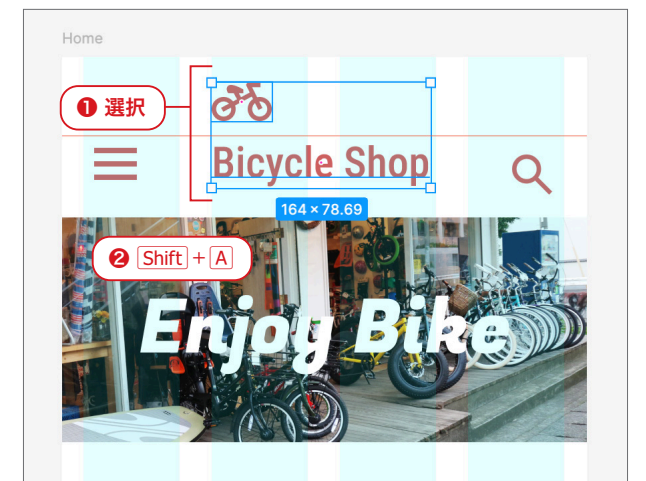
- LESSON 2に引き続き、「Bicycle shop」ファイルを開いて操作します。「Home」フレームを選択します**1**。「レイアウトグリッド」の「グリッド 8px」の「」をクリックして**2**、「」に変え**3**、グリッドを非表示にします**4**。



Tips
[]と[]の操作の他に、**[Shift]+G**キーによる「レイアウトグリッドの表示/非表示」が可能です。

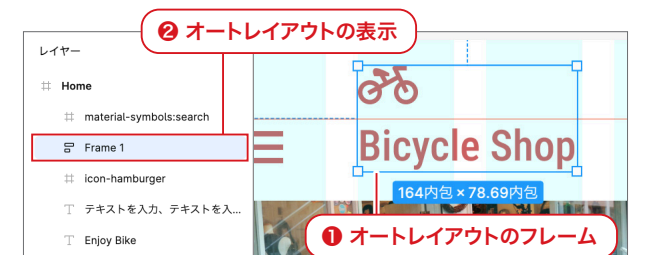


- 自転車アイコンの「Bicycle」とテキストボックスの「Bicycle Shop」を選択し**1**、**[Shift]+A**キーを押して、「オートレイアウトを追加」を実行します**2**。



Tips
[Shift]+Aキーは、メニュー → [オブジェクト] → [オートレイアウトを追加]のショートカットです。「[デザイン]」パネルの「レイアウト」の「」をクリックしても実行できます。

- キャンバス上で見た目は大きく変わりませんが、「Bicycle」と「Bicycle Shop」が含まれたオートレイアウトのフレームができました**1**。レイヤー名のアイコンが、オートレイアウトを示すに変わります**2**。



4 [オートレイアウト] を以下のように設定します。

方向	① → 横に並べる
配置	② 左揃え
] [左右の間隔	③ 6
水平パディング	④ 0
⌵ 垂直パディング	⑤ 0

オブジェクトが水平に並びます⑥。[オートレイアウト] の [※] をクリックして⑦、[サイズ自動調整] を実行し、フレームのサイズをオブジェクトに揃えます⑧。



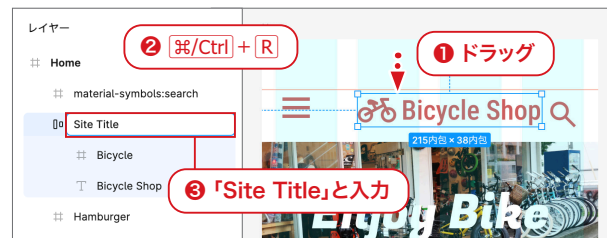
Tech

[方向] の設定で、並ぶ方向が変化します。



5 オートレイアウトのフレームをドラッグして下に移動し、「Hamburger」の横に並べます①。フレームが選択された状態で ⌘/Ctrl + R キーを押してレイヤー名を選択②、以下の名前に変更します③。

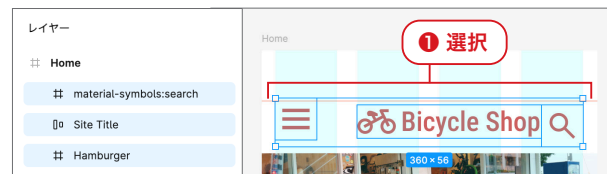
レイヤー名	Site Title
-------	------------



02 オートレイアウトで均等に配置

オートレイアウトを使って、均等間隔に整列します。

1 「Hamburger」「Site Name」「material-symbols: search」の3つのフレームを選択①。



2 [Shift] + A キーを押して、[オートレイアウトを追加] を実行します①。オートレイアウトのフレームが作られ、3つのオブジェクトが等間隔で整列します②。

Tech

オートレイアウトのフレームを選択して、さらに [オートレイアウトを追加] を実行することができます。



3 [オートレイアウト] の [] [左右の間隔] の入力欄を選択して、右端に表示される ∨ をクリックします①。メニューが表示されたら、以下を選択します②。

] [左右の間隔	自動
-----------	----



4 [オートレイアウト] で、以下のように設定します。

方向	① → 横に並べる
配置	② 中央揃え
水平パディング	③ 8
⌵ 垂直パディング	④ 0

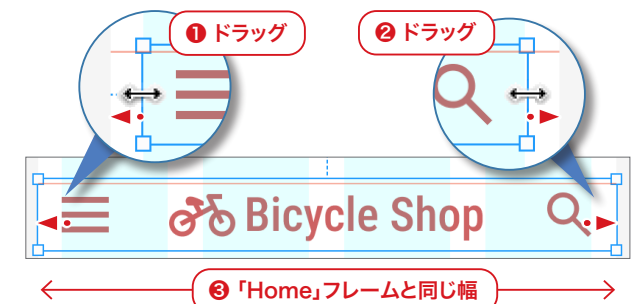


Tech

[| | 水平パディング] に数値を設定すると、フレームの左右に余白が作られます。



5 オートレイアウトのフレームの左辺をドラッグし、「Home」フレームの左端に吸着させます①。同じように右辺をドラッグして、「Home」フレームの右端に吸着させます②。オートレイアウトと「Home」フレームの幅が同じになり③、ハンバーガーアイコンと虫眼鏡アイコンが左右に広がります。



Tech

] [左右の間隔] が [自動] に設定されているため、フレームを拡大しても均等間隔が維持されます。





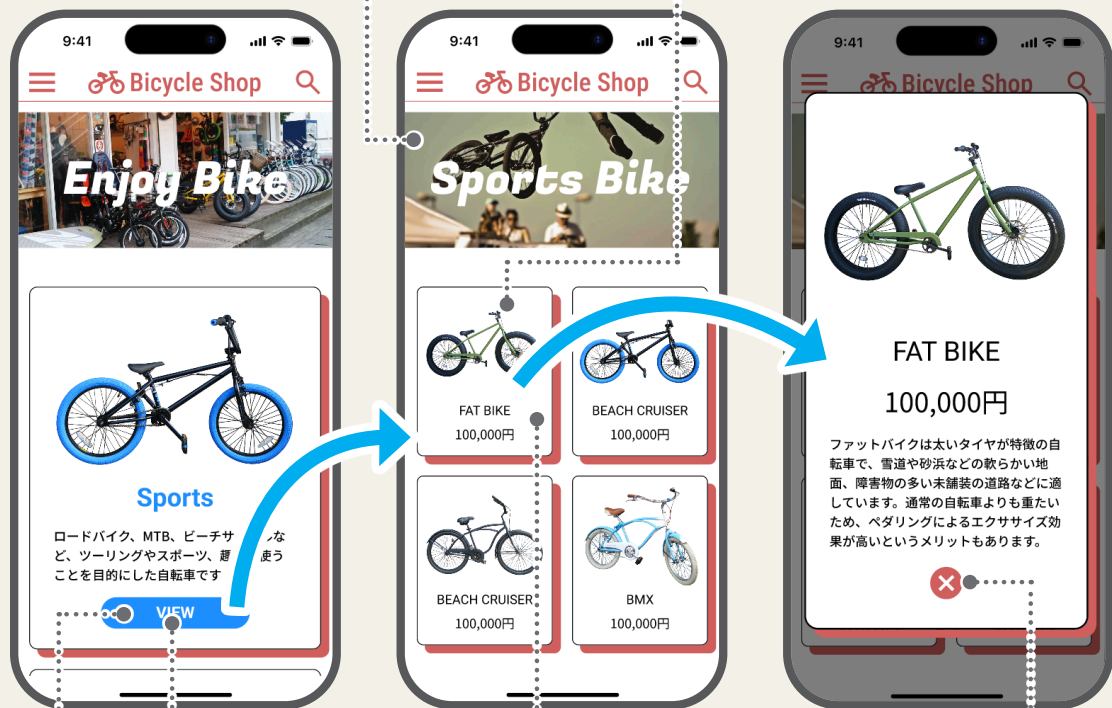
プラグインで画像を配置し、
画像の色調を変更します

B C



スタイルとバリエーションを作成し、小さなカード型デザインを作ります。オートレイアウトの機能を使って、格子状に並べます

A E



タップすると、
他ページへ移動します

F



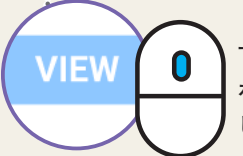
タップすると、オーバー
レイで詳細情報が表示
される設定にします

F



タップすると、オーバー
レイが閉じる設定にします

F



マウスオーバーすると、
ボタンの色が変わる設定に
します

D F

レッスンで学ぶこと

- A スタイルとバリエーション
- B 画像の操作
- C プラグイン
- D バリエーション
- E オートレイアウト
- F インタラクション

01

スタイルの作成

これまでに作成したデザイン設定をスタイルに登録し、他のオブジェクトに利用できるようにします。

01 テキストスタイルの作成

サンプル 4-01-01.fig

テキストの書式設定を、テキストスタイルとして登録します。

- LESSON 3に引き続き、「Bicycle shop」ファイルを開き操作します。[⌘/Ctrl] キーを押しながら、「Section 1」セクションの「Category」コンポーネントの「Type」テキストボックスをクリックして選択します①。[デザイン] パネルを選択し②、[タイポグラフィ]の[:]をクリックします③。

Tips

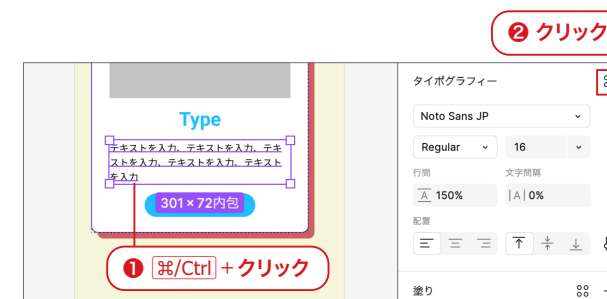
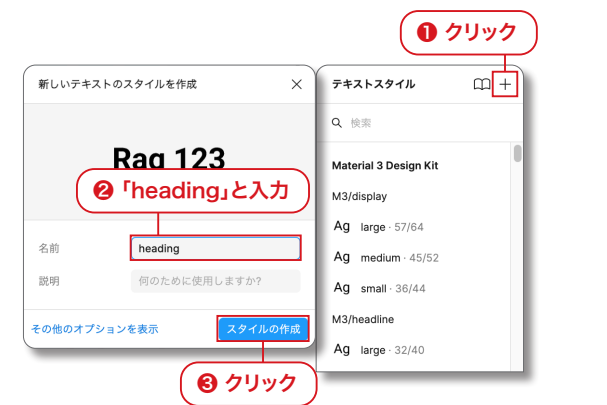
[デザイン] パネルを表示するショートカットは [Option/Alt] + [8] キーです。[デザイン] パネルから [プロトタイプ] パネルへ、あるいはその逆に切り替えるショートカットは [Shift] + [E] キーです。

- [テキストスタイル] パネルが表示されたら、[+] をクリックします①。[新しいテキストのスタイルを作成] パネルが表示されたら、[名前] に以下の文字を入力します②。
名前 heading
[スタイルの作成] をクリックします③。

Tech

[フォント] [ウェイト] [文字サイズ] [行間] [文字間隔] [段落間隔] の書式設定が、テキストスタイルとして登録されます。テキストの挿入方の [配置] は登録されません。

- [⌘/Ctrl] キーを押しながら、「Type」の下の3行のテキストボックスをクリックして選択します①。[タイポグラフィ] の [:] をクリックします②。



- 4 [テキストスタイル] パネルが表示されたら、[+] をクリックします①。[新しいテキストのスタイルを作成] パネルが表示されたら、[名前] に以下の文字を入力します②。

名前 body

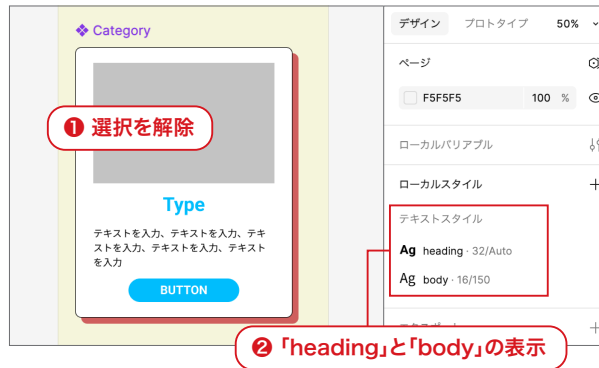
[スタイルの作成] をクリックします③。



- 5 テキストボックスの選択を解除します①。[デザイン] パネルの [テキストスタイル] に、スタイル名 [heading] と [body] が表示されます②。

Tech

オブジェクトの選択を解除すると、[デザイン] パネルの [ローカルスタイル] に、登録したスタイルの一覧が表示されます。

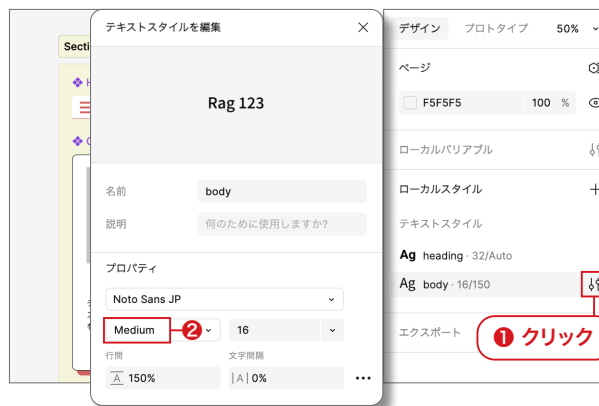


02 テキストスタイルの編集

登録したテキストスタイルの設定を変更し、スタイルを更新します。

- 1 選択が解除された状態で、[テキストスタイル] の [body] の [⌵] をクリックします①。[テキストスタイルを編集] パネルが表示されたら、[プロパティ] の [ウェイト] を [Regular] から以下に変更します②。

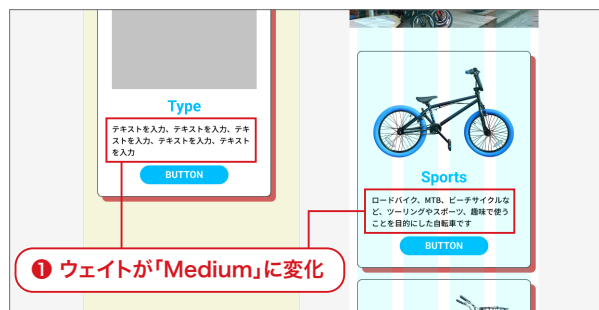
ウェイト Medium



- 2 [body] が適用されているコンポーネントやインスタンスの、テキストのウェイトが変わります①。

Tech

テキストスタイルの書式設定を変更すると、テキストスタイルが適用されているすべてのテキストの書式設定がまとめて変更されます。



03 エフェクトスタイルの作成

設定済みのドロップシャドウを、エフェクトスタイルに登録します。

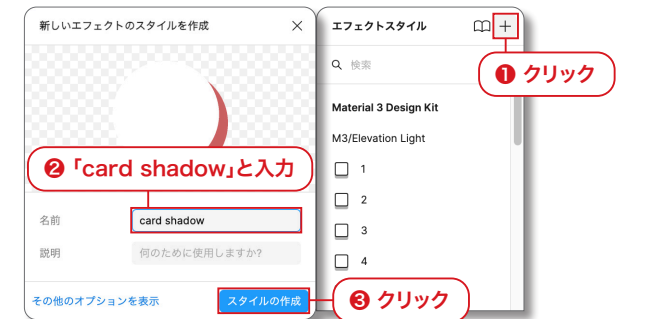
- 1 [Section 1] セクションの [Category] コンポーネントを選択します①。[デザイン] パネルの [エフェクト] の [⌵] をクリックします②。



- 2 [エフェクトスタイル] パネルが表示されたら、[+] をクリックします①。[新しいエフェクトのスタイルを作成] パネルが表示されたら、[名前] に以下の文字を入力します②。

名前 card shadow

[スタイルの作成] をクリックします③。



- 3 [エフェクト] の [ドロップシャドウ] に代わって、[エフェクトスタイル] に [card shadow] が表示されます①。

Tech

エフェクトスタイルを作成することで、[エフェクト] の設定内容を登録して、他のオブジェクトに適用できます。



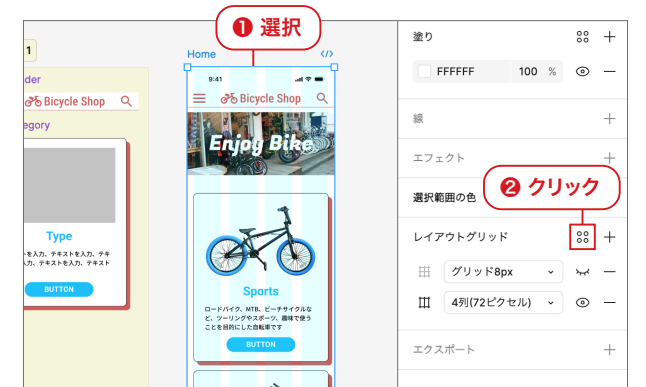
04 グリッドスタイルの作成

フレームに設定したレイアウトグリッドの内容を、グリッドスタイルとして登録します。

- 1 [Home] フレームを選択します①。[レイアウトグリッド] の [⌵] をクリックします②。

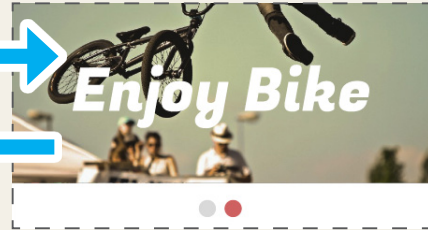
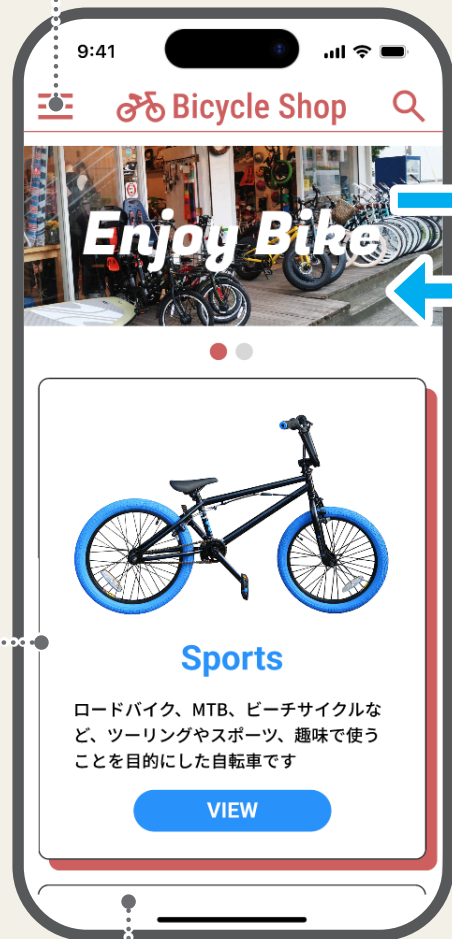
Notes

作例では、[レイアウトグリッド] の [グリッド 8px] が (非表示) の状態です。

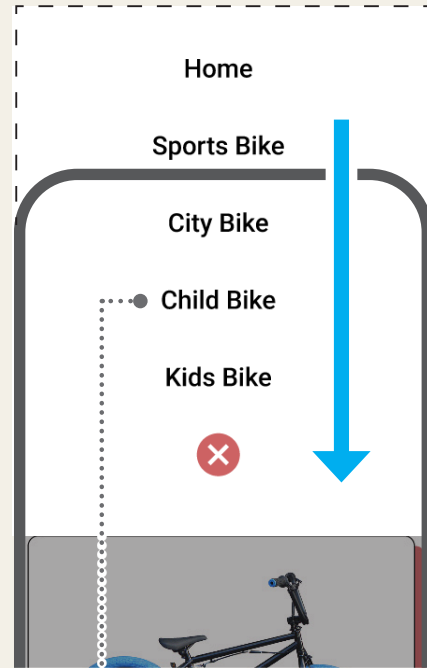




ハンバーガーアイコンをタップするとメニューが表示されるインタラクションを設定します **D**



バリエントを使って、自動で画像が切り替わるカルーセルを作ります **B C D**



オートレイアウトでメニューリストを作り、上から下方向へ現れるオーバーレイを設定します **A D**



モバイルアプリ Figma を操作してプレビュー再生します **E**



他のユーザーとの間で Figma ファイルを共有します **F**

レッスンで学ぶこと

- A** オートレイアウト
- B** コンポーネント
- C** バリエント
- D** インタラクション
- E** モバイルアプリ
- F** 共有操作

01

ハンバーガーメニュー

ハンバーガーアイコンをタップすると、オーバーレイで表示されるメニューリストを作ります。

01 新規フレームの追加

サンプル 5-01-01.fig

メニューページを作るために、新しいフレームを作成します。

- LESSON 4に引き続き、「Bicycle shop」ファイルを開いて操作します。「Bike Detail」フレームの右横の余白を表示し①、[# フレームツール] を選択します②。「[デザイン] パネル」を選択し③、「[フレーム]」の「[スマホ]」のリストから、「iPhone 16」を選択します④。



- 「iPhone 16 - 1」の名前が付いた「393 × 852」のフレームが表示されます。フレームをドラッグして①、他のフレームと上端を揃えます②。



- 「iPhone 16 - 1」フレームが選択された状態で、「[レイアウトグリッド]」の「[::]」をクリックします①。「[グリッドスタイル]」パネルが表示されたら、「4列+8px」を選択します②。



- 4 「iPhone 16 - 1」フレームに、4列のレイアウトグリッドが表示されます①。フレームを選択した状態で **⌘/Ctrl + R** キーを押してレイヤー名を選択し②、以下の名前に変更します③。

フレーム名 Menu



02 複数のテキストボックスの作成

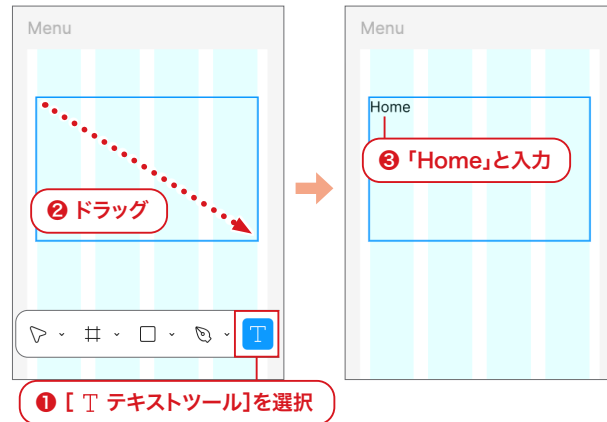
テキストボックスを作成し、メニューリストの最初のテキストである「Home」を入力します。

- 1 [T テキストツール] を選択し①、レイアウトグリッドの1列目から4列目までをドラッグして、テキストボックスを作成し②、以下の文字を入力します③。

入力文字 Home

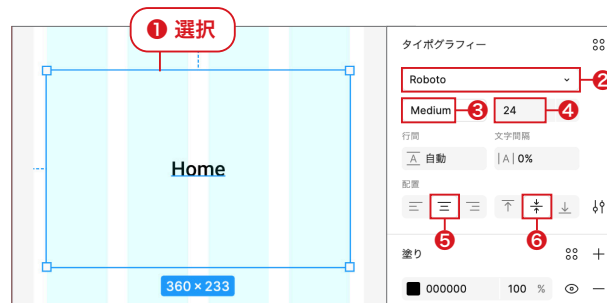
Notes

入力したテキストの書式設定は、操作時の状況によって異なります。図とは異なる場合もありますが問題ありません。



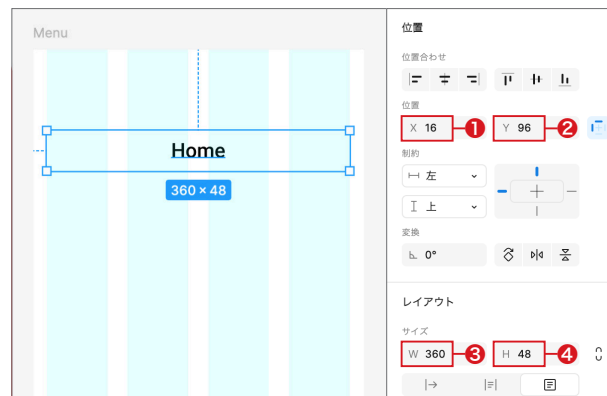
- 2 テキストボックスを選択し①、[タイポグラフィ] を以下のように設定します。

フォント	② Roboto
ウェイト	③ Medium
フォントサイズ	④ 24
配置	⑤ ≡ テキスト中央揃え
上下の位置	⑥ ⇕ 中央揃え



- 3 テキストボックスが選択された状態で、[位置] と [レイアウト] を以下のように設定します。

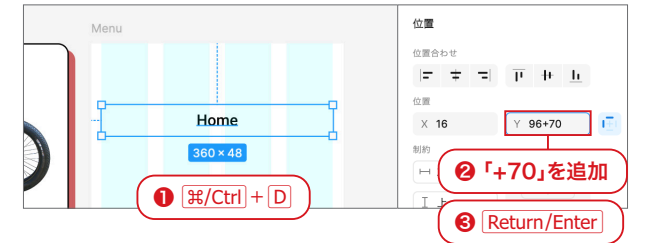
X	① 16	Y	② 96
W	③ 360	H	④ 48



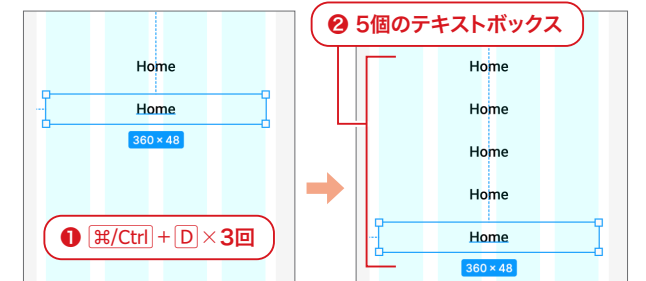
03 オートレイアウトのメニューリスト

オートレイアウトで複数のテキストを整列させて、メニューリストを作成します。

- 1 テキストボックスが選択された状態で、**⌘/Ctrl + D** キーを押します①。テキストボックスが複製されて重なった状態になります。その状態で [位置] の [Y] の数値 (96) の後ろに「+70」を入力して②、**Return/Enter** キーを押します③。



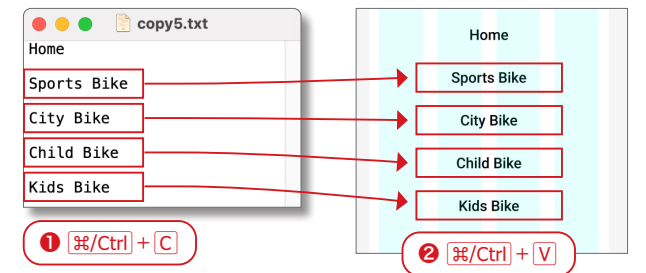
- 2 下へ移動したテキストボックスが選択された状態で **⌘/Ctrl + D** キーを3回押して、3個のテキストボックスを作成し①、合計5個にします②。



- 3 本書用のデータ [Lesson5] > [5-01] > [txt] フォルダの「copy5.txt」を、テキストエディタで開きます①。

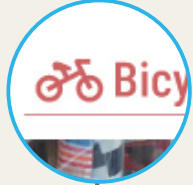
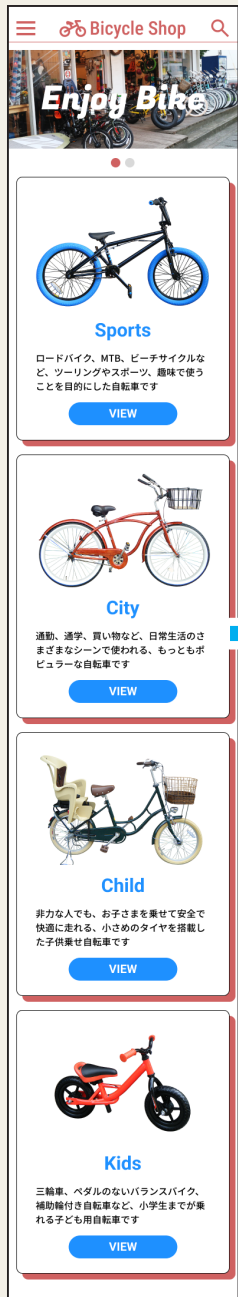


- 4 テキストが表示されたら、2行目から1行ずつ **⌘/Ctrl + C** キーを押して [コピー] し①、2番目のテキストボックスのテキストから順番に選択して、**⌘/Ctrl + V** キーで [ペースト] していきます②。

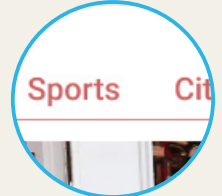


- 5 「Bike Detail」フレームから「Close」インスタンスを選択して①、**Option/Alt** キーを押しながら、「Menu」フレームの一番下にドラッグして複製します②。

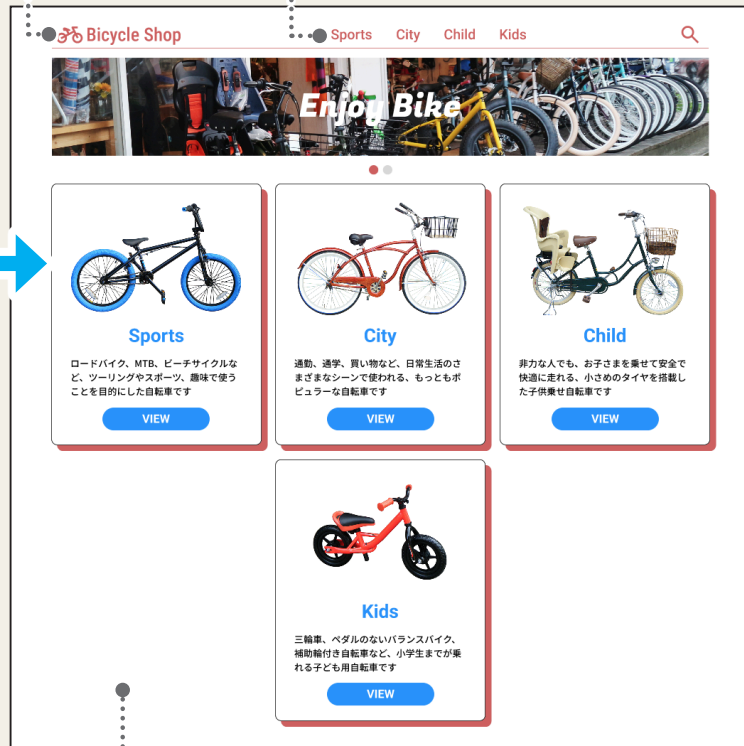




プロパティで、ハンバーガーアイコンを非表示にします
D E



テキストプロパティで、グローバルナビゲーションのテキストを変更します
D E



オートレイアウトと制約を使って、フレームの幅を拡大したとき、レスポンシブに変化するように設定します
A B C F

レッスンで学ぶこと

- A フレーム操作
- B オートレイアウト
- C 制約
- D コンポーネント
- E プロパティ
- F レスポンシブ

01

レスポンシブなフレームの拡大

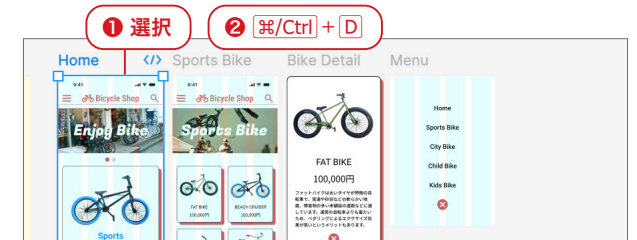
スマホ用のサイズで作った「Home」画面を、レスポンシブに拡大縮小できるように変更します。

01 デスクトップPC用フレームの複製

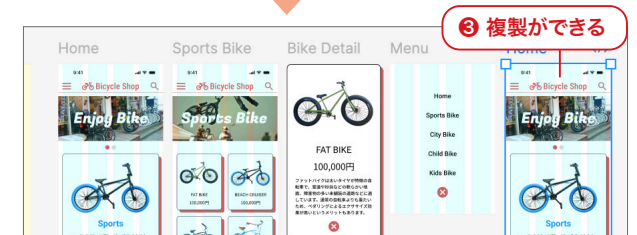
サンプル 6-01-01.fig

スマホ用の「Home」フレームを、デスクトップPC用フレームとして利用するため複製します。

- LESSON 5に引き続き、「Bicycle shop」ファイルを開いて操作します。「Home」フレームを選択し、**[⌘/Ctrl] + [D]** キーを押し、「複製」を実行します。右の余白に「Home」フレームが複製されます。

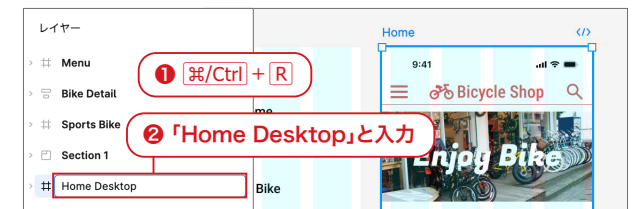


Tech
フレームを「複製」すると、真上に作成されるのではなく、横に並べて複製が作られます。

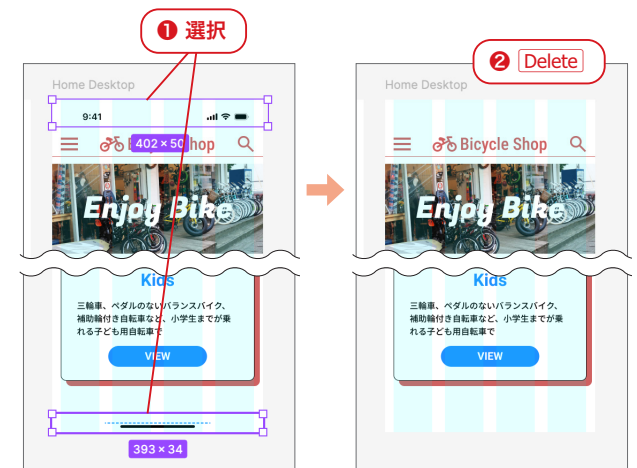


- 複製したフレームが選択された状態で、**[⌘/Ctrl] + [R]** キーを押しレイヤー名を選択し、以下の名前に変更します。

レイヤー名 Home Desktop



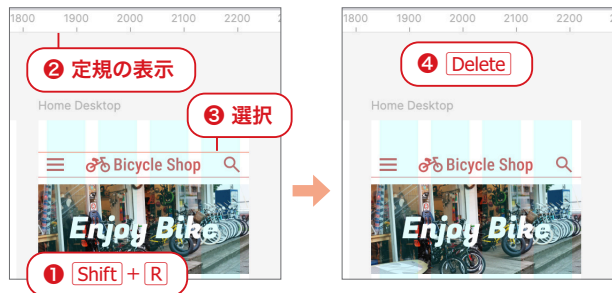
- 「Home Desktop」フレームの一番上にある「Status Bar」インスタンスと一番下にある「Home Indicator」インスタンスを選択し、**[Delete]** キーを押し削除します。



Notes
デスクトップPC用のWebページを作成するため、スマホ専用の「Status Bar」と「Home Indicator」を削除します。

- 4 [Shift]+[R] キーを押して①、定規を表示します②。定規と共に表示された「Header」の上のガイドラインを選択して③、[Delete] キーを押して削除します④。

Notes
デスクトップPC用のフレームを作るため、iPhone用のセーフエリア(29ページの「Check!」を参照)を示すガイドラインを削除します。



- 5 もう一度 [Shift]+[R] キーを押して①、定規を非表示にします②。「Home Desktop」フレームを選択します③。[レイアウトグリッド]の「4列+8px」の「-」をクリックして④、レイアウトグリッドを削除します⑤。

Notes
デスクトップPC用のフレームを作るため、iPhone用のレイアウトグリッドを削除します。

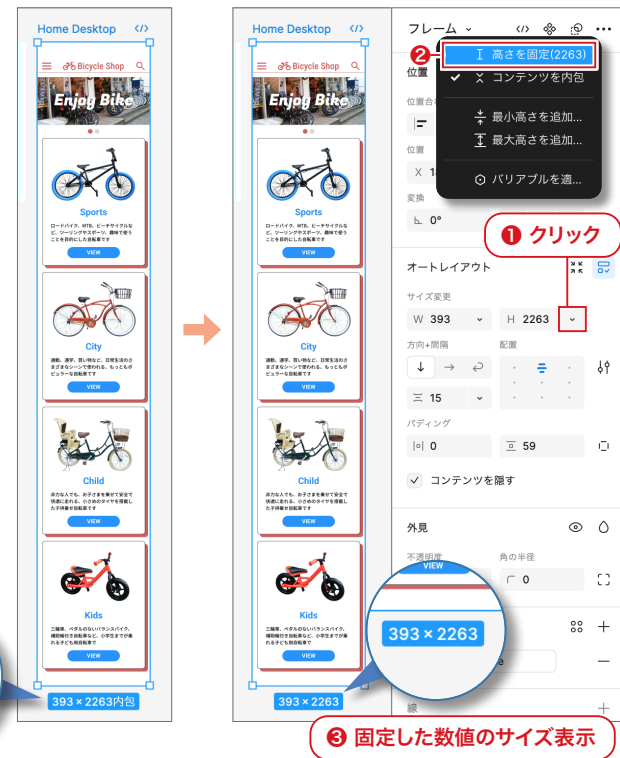


- 2 「Home Desktop」フレームが選択された状態で、[オートレイアウト]の[H]の∨をクリックし①、以下を選択します②。

H I 高さを固定 (2263)

底辺のラベルが「393 × 2263 内包」から「393 × 2263」のサイズ表示になります③。

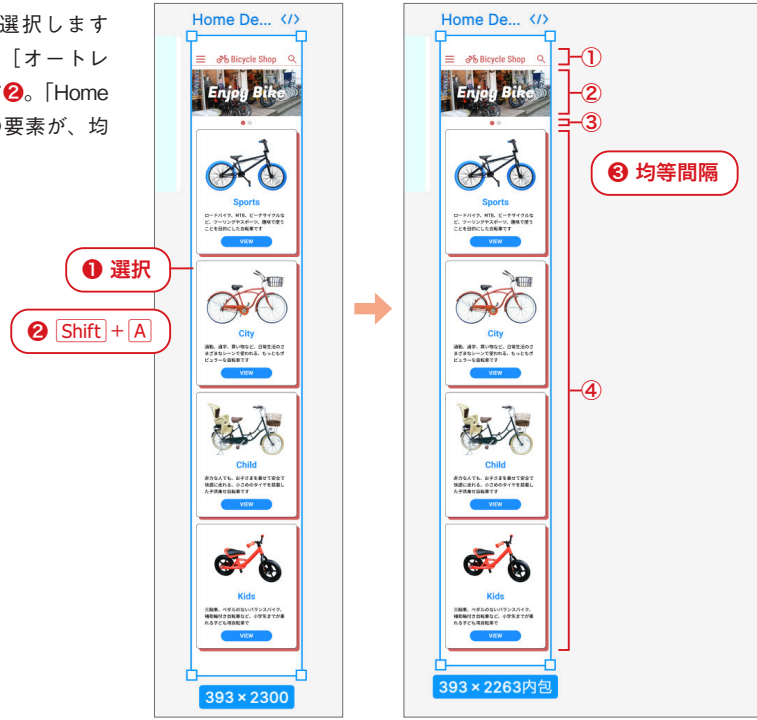
Tech
縦に並べるオートレイアウトを設定すると、フレームの高さは「× コンテンツを内包」に設定され、フレーム内の子要素の大きさが変わるたびに親フレームの高さが変わります(110ページの「Check!」を参照)。設定を「× コンテンツを内包」から「I 高さを固定」に変更することで、フレームの大きさが子要素の拡大縮小に影響されなくなります。



02 フレームに合わせて子要素を拡大

「Home Desktop」フレームを拡大した際に、「Header」と「Carousel」の幅が広がるように設定します。

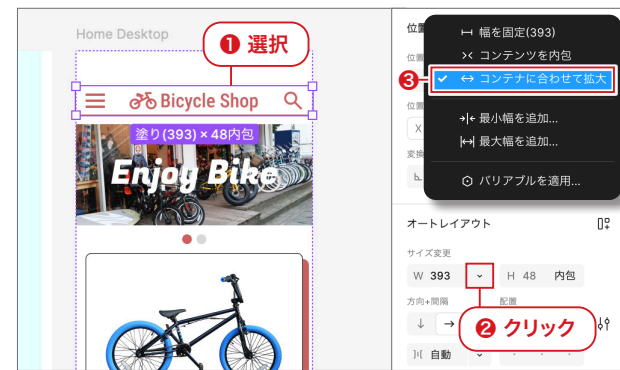
- 1 「Home Desktop」フレームを選択します①。[Shift]+[A] キーを押して、[オートレイアウト]を追加を実行します②。「Home Desktop」フレーム内の4つの要素が、均等間隔で整列します③。



- 3 「Header」インスタンスを選択します①。[オートレイアウト]の[W]の∨をクリックし②、以下が選択されていることを確認します③。

W ⇔ コンテナに合わせて拡大

Notes
「Home Desktop」フレームをオートレイアウト化すると、自動で「⇔ コンテナに合わせて拡大」になります。

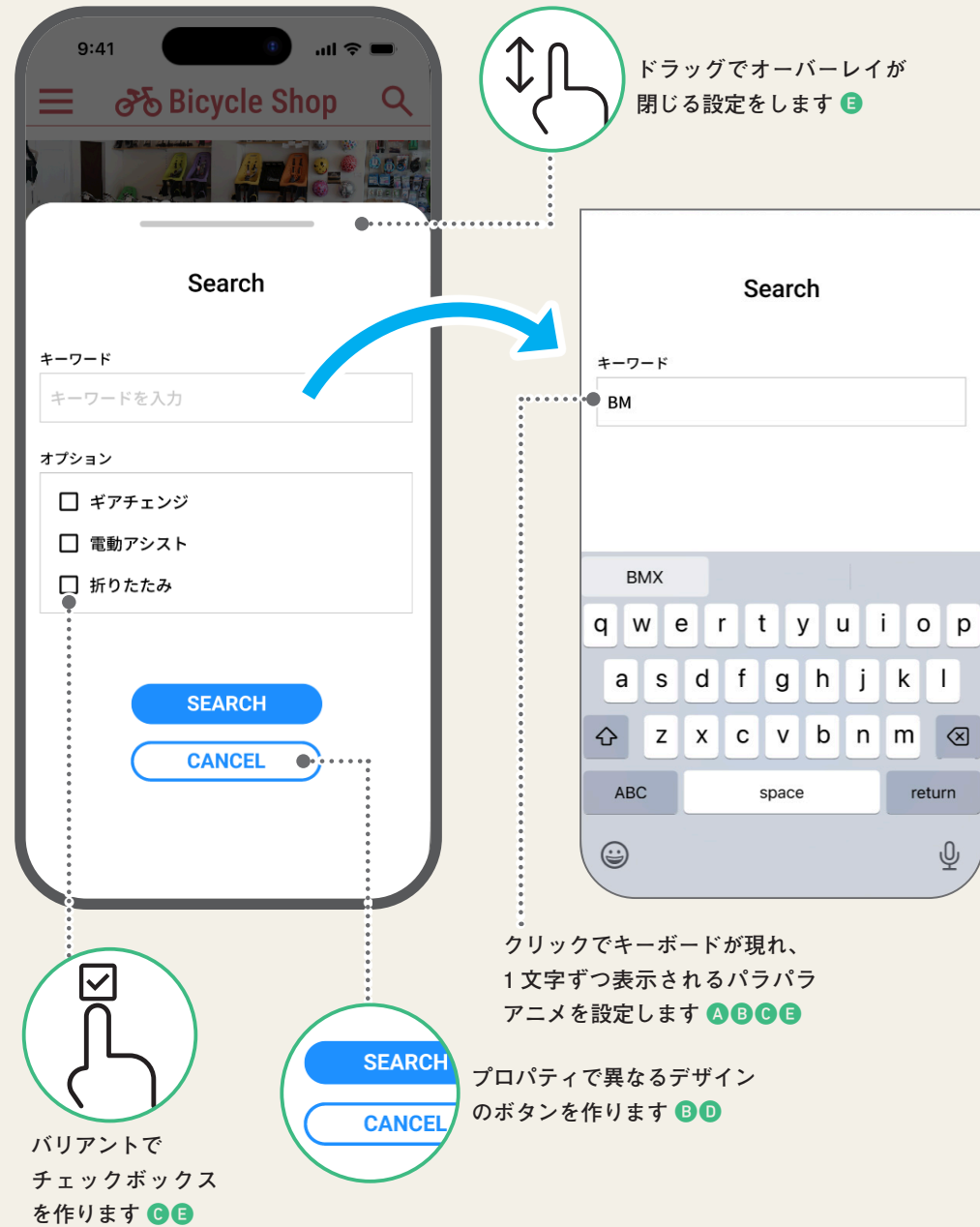


- 4 「Carousel」インスタンスを選択します①。[レイアウト]の[W]の∨をクリックして②、以下が選択されていることを確認します③。

W ⇔ コンテナに合わせて拡大

Tech
オートレイアウトの「Home Desktop」フレームは、子要素の「Header」に「⇔ コンテナに合わせて拡大」を設定でき、フレームを拡大すると、それに合わせて子要素も拡大します(110ページの「Check!」を参照)。



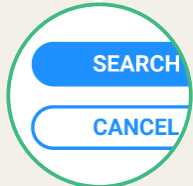


ドラッグでオーバーレイが閉じる設定をします E



クリックでキーボードが現れ、1文字ずつ表示されるパラパラアニメを設定します A B C E

プロパティで異なるデザインのボタンを作ります B D



バリエントでチェックボックスを作ります C E

レッスンで学ぶこと

- A オートレイアウト
- B コンポーネント
- C バリエント
- D プロパティ
- E インタラクション

LESSON 7
01

検索用ウィンドウの作成

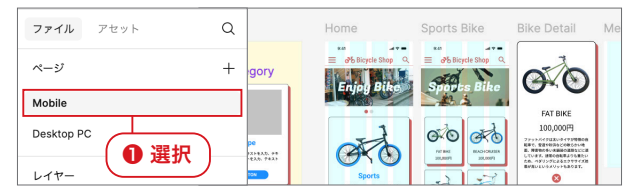
新しく検索用ウィンドウを作成し、ヘッダの虫眼鏡アイコンのクリックでオーバーレイ表示するように設定します。

01 新規フレームの作成

サンプル 7-01-01.fig

検索用ウィンドウを作るために、新しいフレームを作成します。

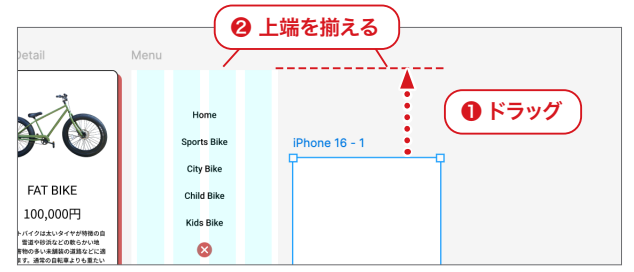
1 LESSON 6に引き続き、「Bicycle shop」ファイルを開いて操作します。[ファイル] パネルの[ページ]で、「Mobile」を選択します ①。



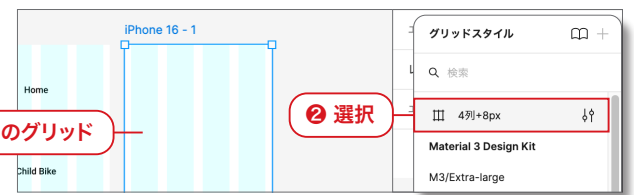
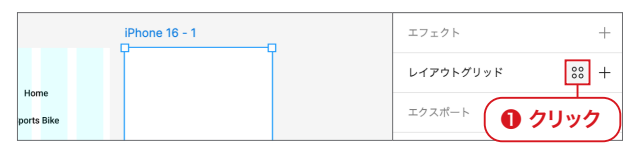
2 「Menu」フレームの右横の余白を表示します ①。[# フレームツール] を選択して ②、[デザイン] パネルの[フレーム]の[スマホ]のリストから、「iPhone 16」を選択します ③。



3 「iPhone 16 - 1」の名前が付いた「393 × 852」のフレームが表示されます。「iPhone 16 - 1」フレームをドラッグして ①、他のフレームと上端を揃えます ②。

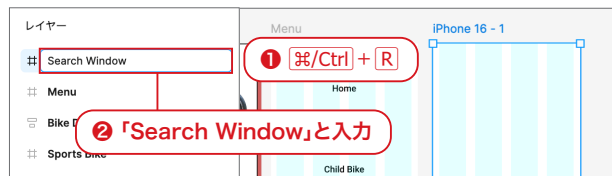


4 「iPhone 16 - 1」フレームが選択された状態で、[レイアウトグリッド]の[☰]をクリックします ①。[グリッドスタイル]パネルが表示されたら、「4列+8px」を選択します ②。4列のグリッドが表示されます ③。



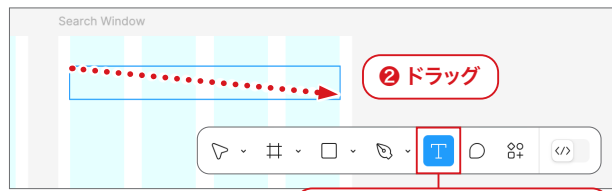
- 5 フレームが選択された状態で **⌘/Ctrl + R** キーを押してレイヤー名を選択し①、以下の名前に変更します②。

レイヤー名	Search Window
-------	---------------



- 6 [T テキストツール] を選択し①、レイアウトグリッドの1列目から4列目までをドラッグして、テキストボックスを作成し②、以下の文字を入力します③。

入力文字	Search
------	--------



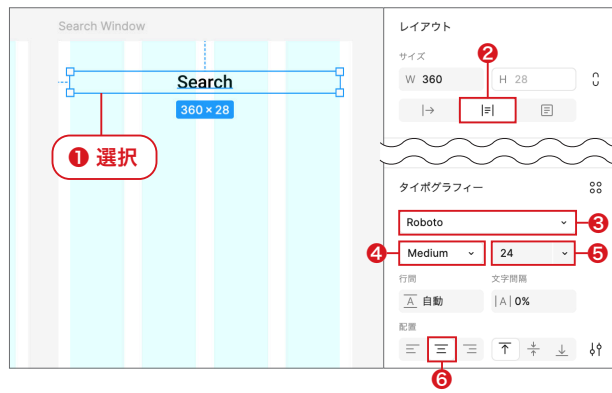
Notes
入力したテキストの書式設定は、操作時の状況によって異なります。図とは異なる場合もありますが問題ありません。

- 7 テキストボックスを選択し①、[レイアウト] で以下のように設定します②。

サイズ調整	高さの自動調整
-------	---------

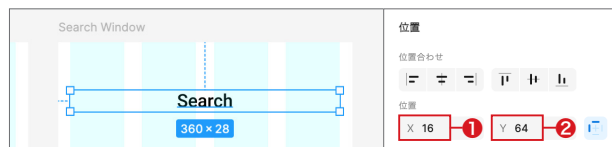
続いて [タイポグラフィ] を以下のように設定します。

フォント	③ Roboto
ウェイト	④ Medium
フォントサイズ	⑤ 24
配置	⑥ ≡ テキスト中央揃え



- 8 テキストボックスが選択された状態で、[位置] を以下のように設定します。

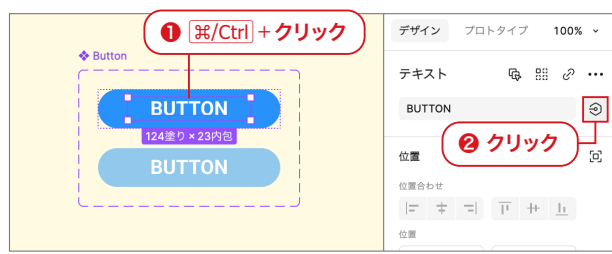
X	① 16	Y	② 64
---	------	---	------



02 プロパティによるテキスト変更

コンポーネントのテキストボックスにプロパティを設定して、インスタンスのテキストを変更します。

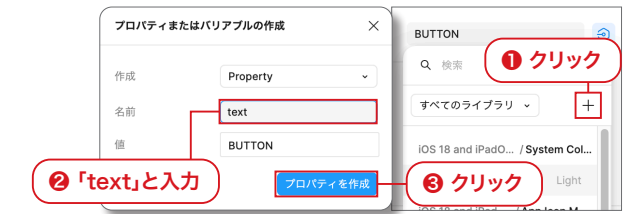
- 1 「Section 1」セクションを表示します。**⌘/Ctrl** キーを押しながら「Button」コンポーネントセットの上段の「BUTTON」をクリックして、テキストボックスを選択します①。「テキスト」の [🔗] をクリックします②。



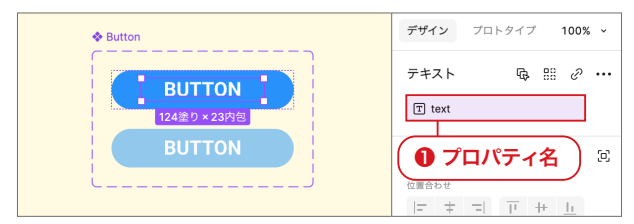
- 2 設定パネルが表示されたら [+] をクリックします①。「プロパティまたはバリアブルの作成」パネルが表示されたら、「名前」に以下の文字を入力します②。

名前	text
----	------

[プロパティを作成] をクリックします③。

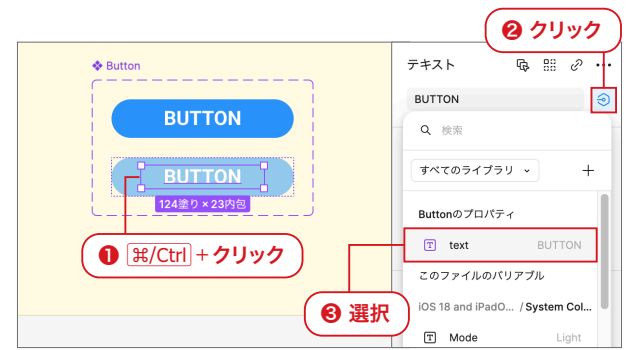


- 3 [テキスト] に、プロパティ名が表示されます①。

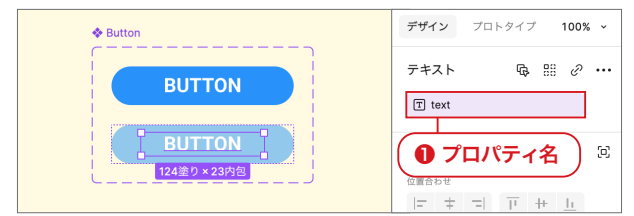


- 4 **⌘/Ctrl** キーを押しながら、下段のバリエーションのテキストボックスをクリックして、選択します①。「テキスト」の [🔗] をクリックし②、設定パネルが表示されたら、上段のテキストボックスのプロパティ名である以下を選択します③。

名前	text
----	------



- 5 [テキスト] に、上段のテキストボックスのプロパティ名と同じプロパティ名が表示されます①。



- 6 [アセット] パネルを選択して①、「このファイル内で作成」を選択します②。

